横浜市立深谷中学校
平成２８年度　学力向上アクションプラン

１ 学校の状況と地域の実態

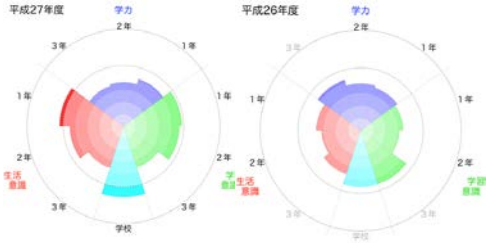
（1）学習習慣が身に付いていない生徒が多く、学習の必要性や意義を理解させる必要がある。
（2）基礎学力の定着に課題がある生徒が多く、学校全体で授業内外における基礎基本を定着させるための取り組みが必要である。
（3）教員は授業改善に向けて意欲をもって取り組んでいるが、経験の浅い職員が増えてきていることも含め、今後、全教科等で授業改善のための組織的な取組が必要になってくる。
（4）地域と学校の関係は密接であり、学習ボランティア等学力向上に向けた具体的な取組案について、地域と連携して取り組んでいくことも検討していく必要がある。

２ 中期学校経営方針

学力向上に関する指導の目標・方針

「見通す・振り返る」学習活動を取り入れることを心がけ、「主体的に学習に取り組む態度」を育みます。
研究と研修の効果的な実施により、授業力・教師力の向上を図り、学び続ける教職員を目指します。
○子どもの興味・関心や特性等を理解し、それらに応じた指導方法の工夫改善を図る。
○習熟度別指導やＴＴを効果的に活用し、基礎基本の充実を図る。
○放課後の学習会の充実を図る。
○ＩＣＴや学校図書館の活用等の充実を図る。
　子ども像の共有化、指導の工夫に向けた双方向の授業見学、合同授業研究会の実施

３ 横浜市学力学習状況調査等からの平成２７年度の実態把握



全体的に、横浜市の平均を大幅に下回る状況である。学校の授業は分かりやすいと感じている生徒が、５割いる。市の平均より１割少ないが、C 層・D 層が７割を超える状況から考えると、丁寧に指導していて基礎基本を定着させるよう工夫している。学習意識は理科と社会科が高いが、全体として平均を下回っている。また、**1 日の運動にかけている時間が 2 時間以上 56%で健康に留意している生徒が多くいる。**

新２年生は、**『１日に、携帯電話やスマートフォンを操作して、インターネットやメール、SNS をどれくらいしていますか。』**携帯電話に時間を費やしている生徒は全体では少ない。学習意識は理科、社会、国語が高い。**将来の夢や目標をもっていますか ?もっていると答えた。生徒が 10%上昇した。自己肯定感をもつ生徒が増えてきている。**

≪教科学習の状況≫

５教科すべてで、学力層Ａの生徒が市の学力層Ａの生徒の割合の半分にも及ばない。
○国語科：新2.年生では、国語科の勉強が好きと感じている生徒が５割以上いる。国語の授業がよくわかると解答した生徒が多く国語科の意識は高い。
○社会科：社会科の授業が好きで、授業が分かりやすいと感じている生徒が多い。学年を問わず思考・判断の観点の数値が高くなっている。
○数学科：授業に前向きに取り組む生徒が多く、授業のねらいを達成するために努力するが、学力層 C,D が全体の７０％以上に達しており、基礎学力の定着に大きな課題がある。
○理科：学習への意欲はあるが、学力層Ｄが市の２倍近くいるため授業に工夫改善が必要になっている。
○外国語科：新２年生は英語科に対する意識が高い、ただし全学年でＡ層が、市の平均の半分以下である。

≪経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）≫

全体的に生徒は各教科について学習意識の向上が見られ、学習することの意義を感じている生徒が増加してきている。どの学年でも学力層で見るとＤ層の生徒が教科を問わず市平均よりも多く、基本的な内容を十分に身に付けていない生徒が多い。基礎基本の定着をはかるため、①教師による授業力向上のための組織的な取り組み②家庭学習の充実を目指す取り組みが必要である。

４ 平成２８年度　目標と具体的方策

平成２８年度　目標

学習の意義や必要性を理解し意欲的に学習に取り組む生徒を育むために、各教科等で「分かる授業」の工夫を行う。各教科の授業において、本日の目標を明確にする。

（１）学校組織としての共通の取組

○ **教科指導の充実**

学習の基本となる教科の充実を図るために、教師自身の授業のようすや他教員の授業を分析する機会を増やすことによって、教科指導の充実を図る。

○ **生徒の意識向上**

生徒の学習に対する意欲を高めるために、各教科で目標達成シートを導入し、目的意識を持って授業に臨めるような環境をつくる。また、試験の結果を系統的に整理し、学習成果の変動を生徒自身が実感できるような試験計画表づくりを行う。

また、各教科で家庭学習を促すための指導を行い、家庭学習習慣の定着をはかる。

○ **基礎学力向上**

四則計算や分数、常用漢字の習得を主な目的とした放課後の学習会を継続的に行い、基礎学力の向上を図る。

（２）学年・教科等としての取組

国語

○漢字等基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させるとともに、自らの学習状況を把握できるよう振り返りシート等を活用する。
○生徒の学習意欲を高めるために、実生活に結び付いた言語活動の設定やグループ活動を工夫する。

社会

○学習に関心をもてるように、単元の導入やまとめに映像資料の活用をおこなう。
○世の中の出来事や課題に対して、自分の考えをもち、まとめることができるように、自主学習や調べ学習に取り組ませる。

数学

○ 2、3 学年で習熟度別少人数授業を実施し、それぞれのニーズに応じた授業を実践していく。
○ 家庭学習を定着させるために自学習用のプリント教材を準備し、常に生徒へ提供していく。

理科

○実験を中心とした授業構成とし、生徒の主体的な取り組みを後押しする。
○実験考察の時間を十分に確保し、生徒の思考力・表現力を高める。

音楽

○ 合唱コンクールでは他教科領域の学習と関連付け、生徒がより主体的に学習できるようにする。
○ 表現領域では繰り返し練習することで、表現力の向上をめざす。

美術

○横浜版学習指導要領ベースカリキュラムに基づいた小中９年間を見通した題材配列を考える。
○生徒一人ひとりが意欲的に表現主題を追及できる魅力的な題材の提供を図る。

技術・家庭

○これまでの既習事項や生活体験を把握し、生徒の資質等も考慮した上で題材設定を工夫する。
○実践的・体験的活動の充実を図る中で、生徒自ら問題解決できるような場面を工夫する。

外国語

○UNIT 全体で子供に身に付けさせる力を明確にして基礎基本の定着を図り、確認する場面を設ける。
○AET との会話する場面を計画的に設定し、表現力の向上を図る。

特別活動

○ 生徒たちの自治能力を育むために、行事や学級での活動の充実を図る。
○ すべての活動を通して、他者を思いやる気持ちを育んでいく。（Fph の理念に基づいた活動）

総合的な学習の時間

○職場を選択する活動を通して自分への気付きを深め具体的な行動につなげて考えるようにする。
○体験で学んだことを整理分析することで、自己の将来について考えを深められるようにする。

個別支援学級

○より実践的な活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。
○ 個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図る。

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。